

# 病虫害発生予察特殊報(第6号)

平成17年12月26日  
神奈川県病虫害防除所長

病虫害名：ジュウシホシクビナガハムシ  
*Crioceris quatuordecimpunctata*

作物名：食用アスパラガス

## 1 発生経過

- (1) 平成17年5月17日、津久井郡相模湖町でハムシがアスパラガスを加害しているのを、北相地区事務所研究課職員が確認した。
- (2) 発生初期には大きな被害はみられなかったが、7月上旬から個体数が増加し、成虫及び幼虫が擬葉の先端に多く見られた。同時に擬葉の先端が食害されたり、若茎の表皮に食害痕が見られるようになった。
- (3) 平成17年8月に病虫害防除所職員が成虫を採取し調べたところ、ジュウシホシクビナガハムシと確認された。
- (4) 本種はアスパラガスの害虫として知られているが、本県の経済栽培のアスパラガスで被害を確認したのは今回が初めてである。

## 2 形態および生態

### (1) 形態

成虫は体長7.0~8.0mm、全体が赤橙色で上翅に14個の黒紋がある。腹面と肢は黒色。卵は長さ1.2mm程度、長楕円形で乳黄色、後に灰黄~灰黒色に変わる。幼虫は灰緑色で頭部は黒色、孵化直後は1.3mm程度、老熟(4齢)すると体長10mm程度になり、直径8mm程度の丸い土まゆを作って蛹化する。蛹は全体灰黒色で体長7mm程度である。

### (2) 生態

年1回の発生。越冬成虫は若茎が発生する4~5月に活動を開始し、萌芽したアスパラガスの芽先や表皮を食害する。産卵部位は萌芽時と若茎時には葉芽内及び鱗片内に1~5粒ずつ並べて産みつけ、開葉後は擬葉と葉柄の基部に1~2粒産卵する。幼虫は5~9月に見られ、若茎や擬葉を食害し、土中で蛹化する。新成虫は6月から現れ、再び擬葉や若茎などを食害する。卵から成虫になるまでの日数は25~30日程度である。10月にはほ場周辺の落ち葉の下や、ほ場内の土中や刈株内、枯茎内に移動し越冬する。

## 3 被害および寄主植物

若茎が萌芽し始めると越冬成虫が集まり、芽先を加害する。芽や茎の表面を加害するので、茎は曲がったり変色し商品価値が無くなる。収穫打ち切り後の茎立ちが始まると擬葉を食害する。寄主植物は食用アスパラガスの他、タチテンモンドウ、スギノハカズラ等の観賞用アスパラガスや野生のアス

パラガス属雑草のキジカクシ等である。山林にキジカクシが生えている山沿いの畑で被害が多い。

#### 4 防除対策

- (1) 越冬成虫による加害があるので、発生園では萌芽初期から防除を行う。また、被害が発生する期間が長いので、収穫打ち切り後まで適宜防除を行う。
- (2) 未成園のうちから防除を行う。未成園を無防除で管理すると、本虫の発生密度が高くなり収穫年次になって若茎が食害されることがある。
- (3) 越冬場所となる秋の枯れ枝、落葉処理等を行う。
- (4) 成虫は暖かい日中に活動するので、日中に薬剤を散布すると効果が高い。

#### 5 ジュウシホシクビナガハムシの防除薬剤

薬剤名	使用時期及び回数	倍率
アディオン乳剤	前日・3回	2000～3000倍
DDVP乳剤50	前日・2回	1000倍
エルサン乳剤	3日・2回	1000倍
アクテリック乳剤	7日・2回	1000倍

等



上：ジュウシホシクビナガハムシ幼虫



右：ジュウシホシクビナガハムシ成虫

(農業技術センター北相地区事務所  
堀越氏提供)

神	奈	川	県	病	害	虫	防	除	所
〒	2	5	9	-	1	2	0	4	平塚市上吉沢1617
TEL	0	4	6	3	-	5	8	-	0333
FAX	0	4	6	3	-	5	9	-	7411
テレホンサービス									0463-58-6612
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp									